

デジタル田園都市国家構想交付金事業評価検証シート【2023年度評価検証】

事業名	デジタル技術の活用と多様な域外主体の参画によって 持続発展する全世代・全員活躍のまち推進事業		
活用している交付金	地方創生推進タイプ (生涯活躍のまち分野)	事業年度	R4年度～6年度

1. 事業の目的と概要

事業目的	住民の参画力を最大限に発揮するとともに、都市部からの人の流れや域外参画との化学反応により多様で新たな活力を創造していくことで、持続性と発展性のある生涯活躍のまちを構築する。 ■地域に自らしごとを生み出す移住者人材の確保を図る ■担い手人材及び官民連携によるまちづくりを持続的に、かつ成果を最大化するための仕組みづくりを図る		
主な取り組み内容	1. 地域に新たなしごとをつくる人材を創出するための移住プロモーションサイクルの構築 2. 子ども期から切れ目なく構築する若者人材育成モデルと関係人口をネットワーク化し、地域に新たな価値を共創するサイクルの推進 3. 首都圏大学と地域との連携による課題解決プロジェクトの実施 4. ICT×リアルのハイブリッドで、全世代交流と全世代の健康を実現するプログラムの推進		
交付金事業費 (実績)	R4	R5	R6
	11,181千円		

2. 評価指標 (KPIの「◇はR6年度時点」「◆はR4～6年度の累計」で達成を確認)

評価指標	目標値	R4年度末 実績	R5年度 実績見込み	R6年度	達成状況 (見込み)
◆①ICT技術を活用する新規就農者数	4人	1人	3人		
◆②移住者や関係人口と町民との共創により新たに生まれた課題解決事業	9事業	8事業	11事業		○
◆③移住者が関わる起業件数	3件	2件	5件		○
◇④町内におけるきゅうりの年間出荷量	1042t	1081t	1030t		

3. 達成状況と事務局評価

(1)達成度とその考察						
中間時の 成果評価	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した				想定される理由	事業を計画どおりに進めることができ、KPIの進捗を含めて、順調に進んでいると評価できる。
目標値 達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で達成できる。 <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能。 <input type="checkbox"/> 目標達成は難しい				根拠	設定した4項目のいずれのKPIも、当初の見込みより順調に推移し、増加している。
(2)事務局(庁内)評価と今後の方向性						
評価	<p>KPI②、③は、地域内の若者人材ネットワークと移住者、関係人口との交流機会が増えたことにより、事業企画立案やチームビルディング、相互に学び合い連携に至る機会の創出が順調に進み、KPIが見込み値を上回って2年続けて増加する見通し。引き続き、計画に沿った事業を推進する。当初見込みより順調にKPI①、④が増加していることに伴って、事業の推進体制を強化して成果を高めるために、引き続き、就農希望者の研修受け入れ増や、民間企業及び高等教育機関と進めるスマート農業システム研究への対応を充実する。</p>					
評価	A	B	C	D	E	A: 実現した B: (策定時と比較して)大きく前進した C: (策定時と比較して)前進した D: (策定時と比較して)変わらない E: (策定時と比較して)後退した
		○				

4. 外部評価 (地方創生総合戦略策定委員会)

評価検証 コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・社会変化のスピードが早く、特に農業も大きく変化していくなかで、トライ&エラーのように、取り組みながら軌道修正を図っていく姿勢が大切。 ・移住定住は各種支援や取り組みが成果に結びついている。 ・鷹栖町に関わる人がどれだけ多いかが、今後魅力的なまちを存続するための要因となると考えるので、関係人口の取り組みが一層進むことを期待する。 ・関係人口などの関わりは、一時的なものにとどまらず、長期的、持続的につながる関わりに発展するように期待する。 ・まちLaboなどで若い人材の活躍の場があることは素晴らしい。主体的に参加して事業を企画実践する町民がいて、行政がサポートするという環境は、鷹栖という地域ならではの魅力が感じられる。
--------------	--